

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成 30 年 10 月 18 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 理学研究科

職 名・学 年 博士後期課程3年

氏 名 入口 真夕子

助 成 の 種 類	平成 30 年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	国際色彩学会2018 (AIC Interim Meeting 2018)		
発 表 形 式	<input type="checkbox"/> 招 待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発 表 題 目	Colour perception characteristics: comparative studies among pre-, peri- and post-menopause women		
開 催 場 所	ポルトガル共和国 リスボン The Calouste Gulbenkian foundation		
渡 航 期 間	平成 30 年 9 月 24 日 ~ 平成 30 年 10 月 1 日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	300,000円	
	使用した助成金額	300,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助 成 金 の 使 途 内 訳	航空券	167,030円
		国際学会参加費	40,784円
		日本国内交通費	3,400円
		ポルトガル国内交通費	4,900円
宿泊・滞在費		83,886円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 学生が応募できる国際学会参加のための助成金は非常に少なく、今回本助成のおかげで、学会で発表することができました。今後の研究にも有益な経験となり、このような機会をいただけたことに感謝いたします。		

成果の概要

京都大学理学研究科 博士後期課程 3 年
入口真夕子

研究集会名： AIC Interim Meeting 2018 (国際色彩学会 2018)
開催場所： ポルトガル共和国 リスボン The Calouste Gulbenkian Foundation
開催期間： 平成 30 年 9 月 25 日～9 月 29 日

研究集会の概要

AIC Interim Meeting (国際色彩学会) は、年一度各国で開催される色彩に関する国際学会であり、2018 年はポルトガルのリスボンで 9 月 25 日～9 月 29 日の 5 日間に及び開催された。本研究集会では、色と人の快適さ (colour & human comfort) をテーマに、色に関する様々な分野の学術研究や実社会での色の活用報告が行われた。開催期間中には、口頭発表、ポスター発表、ワークショップ、招聘講演が行われ、約 40 カ国 250 名程度の参加者が参加した。特に、口頭発表は、色と文化、建築、心理、健康、アートなど、テーマごとのセッションに分けられ、延べ 80 名の発表者が発表を行った。発表テーマは多岐に渡り、自身の専門分野以外にも非常に興味深い研究内容を知ることができた。

発表内容・成果

本研究集会において、Colour perception characteristics: comparative studies among pre-, peri- and post-menopause women というタイトルで、閉経前後の女性において色の知覚はどのように変化するのか、また、女性ホルモンがどのように影響しているのかという研究について口頭発表をした。この研究では、50 歳前後の女性を対象に心理学実験を実施した。実験では、happy、neutral、sad の 3 種類の表情の顔の絵と、それらの顔のパーツをスクラブル上にした絵の刺激を、それぞれ赤、黄、青で PC 画面上に提示し、提示された色を参加者にボタンで回答してもらった。刺激提示から回答するまでの反応時間を測定し、閉経前、閉経最中、閉経後の女性のグループごとに比較を行った。その結果、閉経後の女性のグループは青への反応が有意に遅れることが分かり、閉経という女性ホルモンの変化の色の知覚への影響が示唆される。女性ホルモンが青を知覚する S 錐体の働きに影響する可能性は最近の研究で議論されているが、研究はまだ非常に少なく、研究方法も色の名前を口頭で答えるものであり、本研究にて反応速度の計測により閉経による色の知覚の違いを示したことは意義のある成果だと考える。

口頭発表後の質疑応答では、時間の都合上 2 名からの質問・コメントをもらったのみだ

ったが、その後数名の参加者より興味深い質問やコメントをもらい、本研究についての貴重な議論ができた。また、他の発表者の発表や、様々な分野の参加者との議論を通して、どの種類の青への反応に特に女性ホルモンの影響があるのか、この影響を女性の住環境などの実生活や快適さにどのように生かしていけるのかなど今後の研究テーマへのアイデアも得ることができた。今回の研究集会への参加を通して、多くの参加者と出会い議論ができ、非常に有意義な経験を得た。この経験を今後の研究に活かしていきたい。

謝辞

今回、助成金をいただき、国際研究集会への参加及び口頭発表をすることができましたこと、公益財団法人 京都大学教育研究振興財団に心より感謝いたします。